

①吉井川上流域

河川の特徴

- ・中国山地から小規模盆地を蛇行を繰り返しながら流下する。
- ・準平地である奥津地域の下流には本川ダムの苦田ダムがある。

流域の特徴

- ・傾斜地の中国山地から南は平坦肥沃な準平地が広がる。
- ・米・果樹の農業、林業が盛んで奥津温泉等の観光資源も豊富である。

重点対策

- 水源かん養
 - ・農林業による水源かん養 等
- 流出抑制対策
 - ・沿川市街地、観光地の流出抑制対策 等

②吉井川中流域

河川の特徴

- ・津山盆地を東流後、支川と合流し、吉備高原で和気・英田山地の谷底平野を蛇行しながら流下する。
- ・局所的豪雨等により河川氾濫、内水被害が発生する可能性がある。

流域の特徴

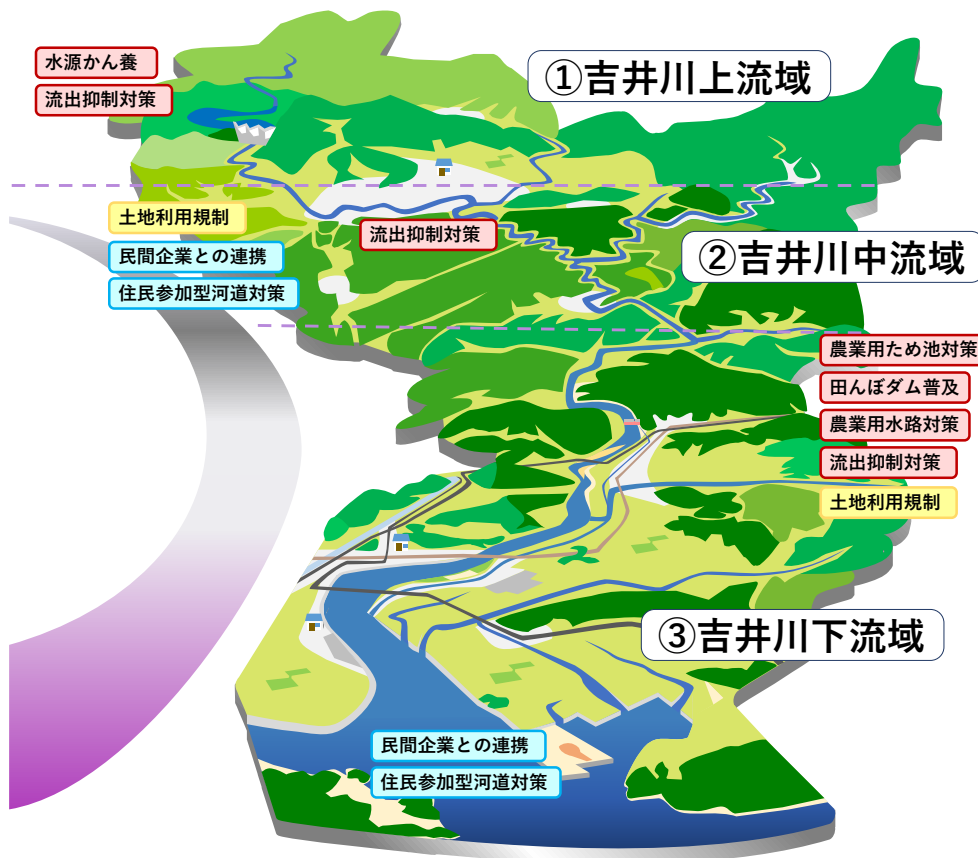
- ・城下町として繁栄した津山市街地は県北地域の中心都市として機能。
- ・ステンレス加工を中心とする工業や米・野菜等の農業が盛ん。

重点対策

- 流出抑制対策
 - ・市街地等の流出抑制対策 等
- 土地利用規制
 - ・浸水エリアへの立地抑制 等
- 民間企業との連携
 - ・民間企業と連携した貯留対策 等
- 住民参加型の河道対策
 - ・住民参加型の樹木の再繁茂防止 等

< 吉井川流域における流域治水対策（イメージ） >

- 豊かな自然環境の中で、中上流の盆地や下流の広大な低平地では豊かな水田が広がり、大規模な生産拠点、金属加工を始めとする工業が集積し、自然と都市が程よく調和した田園都市が形成されている。
- この恵まれた田園都市の中で、自然災害にも柔軟に対応する真に豊かな地域を目指して、河川氾濫や内水被害に対して、流域全体の関係者が連携した流域治水対策を推進する。



③吉井川下流域

河川の特徴

- ・和気低地から岡山平野にかけて緩勾配となり、河原や中洲を形成しながら流下する。
- ・和気低地や岡山平野、児島湾干拓地等低平地が広がり広範囲の浸水被害の発生が懸念される。

流域の特徴

- ・農業が盛んで農業用水路やため池が広く分布する。児島湾干拓地は水田が広がる。
- ・広大な工場用地や水利用が必要となる飲料、半導体、繊維等の大規模工場が立地し、高速交通の利便性から物流拠点化も進む。
- ・住宅が水田と隣接して立地する。

重点対策

- 農業用ため池対策
 - ・既存用水路における事前水位調整 等
- 田んぼダムの普及
 - ・堰板の普及等の促進 等
- 農業用水路対策
 - ・既存用水路における事前水位調整 等
- 流出抑制対策
 - ・市街地等の流出抑制対策 等
- 土地利用規制
 - ・浸水エリアへの立地抑制 等
- 民間企業との連携
 - ・民間企業と連携した貯留対策 等
- 住民参加型の河道対策
 - ・住民参加型の樹木の再繁茂防止 等

岡山三川の比較

- < 最大 > 農業用水かんがい面積 22千ha
- < 最大 > 流域内ため池 3.9千箇所、流域内農地 40千ha
- < 2位 > 粗付加価値額 約60百億円

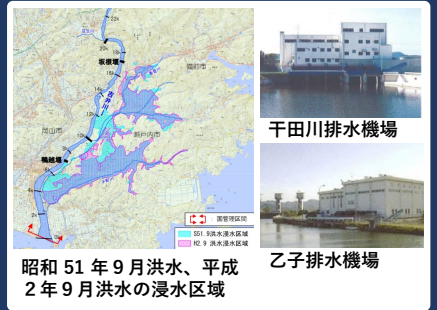
その他特記事項

- 生態系保全に関する団体・企業が活動。
- ・アユモドキ保全活動 等

河川の特徴

下流部における河川氾濫、内水・高潮被害の発生と激特事業

- ・下流部は和気低地や岡山平野、児島湾干拓地等の低平地が広がり、河口部はゼロメートル地帯となっている。
- ・河川氾濫により浸水域が広範囲に及び、内水、高潮によっても浸水被害が発生する。
- ・昭和51年、平成2年に大規模な浸水被害が発生し、河川激甚災害対策特別緊急事業により、支川の河道や大規模な排水機場の整備が実施されている。



中上流部における河川氾濫、内水被害の発生と激特事業

- ・中上流は年間降雨量が多く、台風、前線停滞等による局所的な河川氾濫が発生する可能性がある。本支川の合流部は河床勾配が緩やかで長時間の浸水被害が発生する。
- ・昭和51年、平成10年に大規模な浸水被害が発生し、河川激甚災害対策特別緊急事業により、河道掘削、築堤等が実施されている。
- ・令和 5 年 8 月の台風 7 号では、苫田ダム上流の奥津地域で浸水被害が発生した。



流域の特徴

中上流の盆地、下流低平地で農業が盛ん、かんがい面積は県内最大

- ・上流部は雨量が多く土壌も良いため人工林が広く分布。中上流の盆地、下流の低平地における水田、丘陵地における畑作・果樹が盛んである。岡山三川の中で、田んぼ面積が最大で農業用水路も発達している。苫田ダム整備前にため池も多数整備された。
- ・水田に隣接して住宅が立地している地域が広く分布し、浸水被害が発生しやすい。

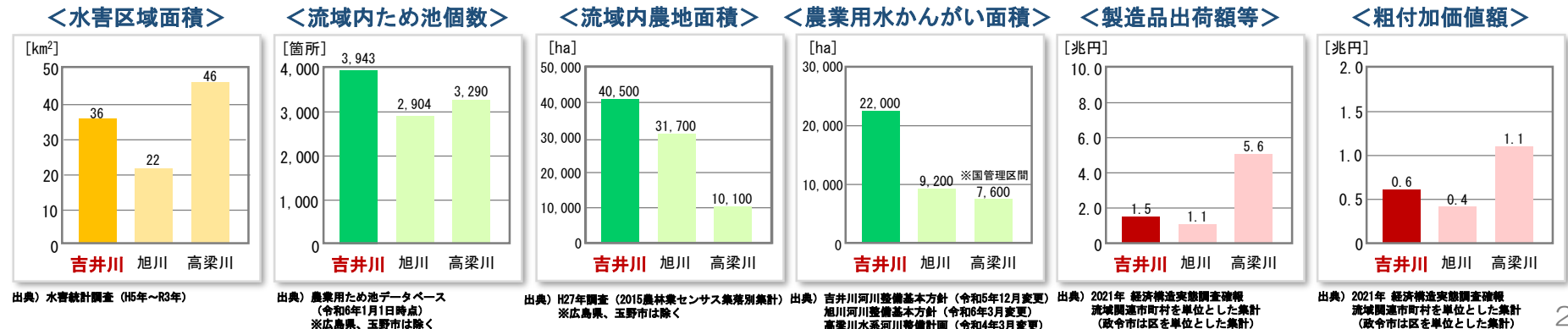


大規模な生産拠点、工業の集積と想定氾濫区域内の市街地形成

- ・水供給が安定し、大規模な工場用地の確保が可能なこと等から下流部は飲料、半導体、繊維等の大規模な生産拠点、津山盆地ではステンレス加工関連企業が集積している。
- ・高速道路へのアクセス等、交通利便性が高い地域であり、物流拠点も多く存在する。
- ・中上流の盆地や下流の低平地には、想定氾濫区域内にも市街地が広がる。



岡山三川の比較



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

多数存在する農業用ため池の有効活用

- ・吉田ダム整備前には、渇水時にも利用可能な農業用のため池が下流部の丘陵地周辺等に多く整備されており、現在まで利用されている。岡山三川の中でも流域内ため池個数が最も多い。
- ・このため、農業用ため池を有効活用して洪水時の流出抑制が図られるよう、ため池への排水調整用の樋門設置等により、雨水貯留機能の向上を図る。

雨水貯留を試行する農業用ため池



追加した排水樋門
【先導例】農業用ため池に排水樋門の設置による雨水貯留機能強化（赤磐市）

田んぼダムの普及促進に向けた取り組みの推進

- ・中上流は、米、野菜等の栽培が盛んで吉井川本川や支川沿いに水田も多く分布。
- ・岡山平野、児島湾干拓地等低平地では、広大な水田が現在も営まれている。岡山三川の中でも流域内農地面積が最も多い。
- ・このため、既存の田んぼを有効活用して洪水時の流出抑制が図られるよう、田んぼの排水口への調整板（堰板）設置の普及促進等により、雨水貯留機能の向上を進める。



【先導例】市が主導してモデル地区を設定し、田んぼダムの取組を推進（赤磐市）

既存農業用水路の有効活用

- ・吉井川は、農業用水として約 22,000haに及ぶ農地に供給されている。国管理区間では新田原井堰、坂根堰等から取水され、張り巡らされた用水路により低平地の水田、丘陵地の畑など、約 6,300haの農地をかんがいしている。
- ・このような既存の農業用水路を有効活用して洪水時の流出抑制が図られるよう、農業用水路の事前水位低下等の検討を図ることにより、雨水貯留機能の向上を目指す。

豊かな森林における水源かん養

- ・中上流では山地が広がり、林業が盛んに営まれている。
- ・このため、水源かん養など、森林の有する多面的機能を維持・増進するための農林業の活性化を図る。



水源かん養等の多面的機能を有する森林資源の保全

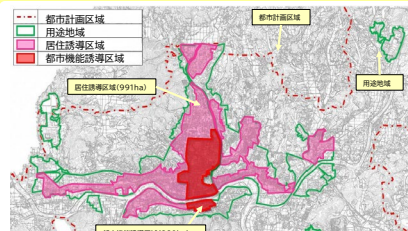
吉井川本川への流出抑制と内水対策

- ・中上流は、吉井川沿川に津山盆地等の市街地が形成され、岡山平野には広大な市街地が広がる。本川への流出抑制と各地の内水被害の軽減を図るためには、上下流が一体となった流出抑制対策が必要である。
- ・このため、施設の新設・更新に合わせて雨水流出抑制が図られるよう、公共施設への貯留施設の設置や民間施設への貯留施設整備に対する協議の義務化等の検討を進める。

被害対象を減少させるための対策

既存市街地や宅地化が進む低平地における土地利用の適正化

- ・吉井川沿川の市街地は、氾濫の危険性が高い低平地に市街地が形成されている。
- ・中上流部の津山盆地を始めとする中上流の吉井川沿川の市街地や江戸時代の干拓により拡張した下流部の低平地は、広く農業が営まれる中で宅地化が進行して来た。
- ・このため、想定氾濫区域等における土地利用の制限等を実施することで、土地利用の適正化を進める。



【先導例】2m以上浸水想定される区域の土地利用制限を実施（津山市）

流域治水への住民参加の取組

民間企業等と連携した流域治水対策、住民参加型の樹林化抑制対策

- ・吉井川流域では、下流部は大規模な生産拠点や物流拠点、津山盆地ではステンレス加工関連企業が集積している。このため、民間事業者への新規整備・更新時に合わせた貯留施設の整備等への働き掛けに取り組む。
- ・中流部では、砂州の形成や樹林化が進行しやすい。このため、伐採した樹木の住民利用など、住民参加型の継続的な堆砂、樹林化の抑制対策を進める。



【先導例】熊山地先における樹木の一般公募。